

○地域公共交通確保維持事業とは

- ◆定義：地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、**路線バス等の地域間交通ネットワークと密接な地域内のバス・デマンド交通の運行について、国から支援**を受けられる制度
- ◆**フィーダー系統**とは：バスの停留所等において、地域間交通ネットワークと接続する（＝バス停留所又はバス停留所と駅との近接で、乗り継ぎ円滑化が図られている）系統

「**広陵元気号中央幹線**」及び「**のーと広陵元気号**」は、近鉄高田駅やその他のバス停留所で、地域間幹線補助系統(主に、高田新家線、高田イオンモール線)と接続又は近接しているため、**地域内フィーダー系統に該当**

※今回(令和7年事業年度)の申請から、**地域公共交通計画と補助制度が連動化**され、申請様式が変更となりました。

参考資料1-1 補助要綱規定事項一覧表

- 国の補助要綱の4つの条項に合致する広陵町地域公共交通計画の記載箇所を示しています。
- 1号:運行を確保・維持する系統の地域における位置付け・役割…6頁、35頁、40頁
 - 2号:地域公共交通確保維持事業の必要性…39頁
 - 3号:運行を確保・維持する系統に係る事業及び実施主体の概要…40頁
 - 4号:旅客運送に係る町の支出額、定量的な目標・効果及びその評価手法…54頁～60頁

参考資料1-2 地域公共交通計画の別紙(地域公共交通確保維持事業)

1 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

これまでの本町の公共交通施策について変遷を記載し、今後も広陵元気号の運行を確保・維持していく目的と必要性を記載しています。

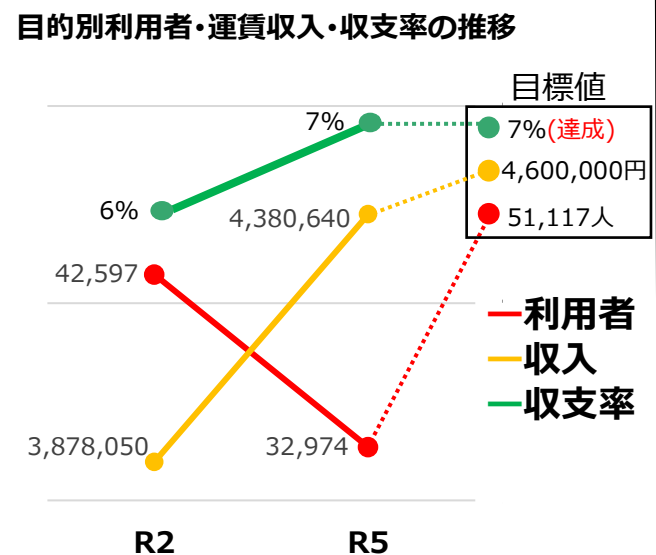
2 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1)事業の目標

R2年度の広陵元気号の目的別利用者および運賃収入の**20%増加**及び収支率**7%**を目標とします。

- 目的別利用者**：新型コロナウイルス感染症による行動制限に加え、R5.7に実施した再編で乗車方法が変更したことにより、**R5は減少**。
- 運賃収入**：R5.7に実施した再編により、1人当たり単価が上がったことで、**R5は増加**。
- 収支率**：収入が増加していることに加え、運営委託料が減少したことから、**R5は目標値を達成**。

地域の公共交通として、利用実績を踏まえた定期的な見直しと、利用促進を行い、1人でも多くの町民が利用できるように努めていきます。



⇒続き

(2)事業の効果

- ①**中央幹線**
近鉄高田駅からはしお元気村までを結び、**住民の通勤・通学、買い物、通院**等の日常生活に必要な移動を確保
- ②**自家用有償旅客運送**
リアルタイム予約型の自家用有償旅客運送により、広陵町内全域の公共・商業施設、地域のリサイクルステーション等に設置する乗降場所、コープなんごう及び国保中央病院を運行し、**住民の買い物、通院**等の日常生活に必要な移動を確保

3 目標を達成するために行う事業

地域公共交通ネットワークの構築	広陵元気号中央幹線、のーと広陵元気号、タクシー、路線バス、妊産婦向けタクシーチケットの配布
奈良交通路線バスのあり方検討	高田新家線等の利用者を増加させるためのあり方検討
近隣自治体等との広域連携	国保中央病院へのアクセスについての広域検討
新たな移動手段の導入	シェアサイクル、企業送迎バス等の検討
情報発信及び住民意見の把握	中間評価に伴う住民意見の把握
モビリティ・マネジメントの実施	バスの乗り方教室、ラッピングデザイン募集、地元企業への周知、広陵元気塾と政策間連携、無料乗車券配布
商業施設との連携	広陵元気号の乗り入れ、ポイントカード制度拡充
利用環境の整備	運行内容変更に伴うバス停標柱の改修、ダイヤ変更に伴う時刻表等の作製、運行アナウンスデータ作製
ICT等を活用した移動手段の利便性向上及び普及活動	のーと広陵元気号アプリ予約・電子クーポンの配布 ICカード・キャッシュレス決済の継続
運転免許自主返納の促進	ICOCA・広陵元気号回数券の配布
まちじゅう図書館事業	町内のどこにいても本に触れられる町立図書館の取組 広陵元気号の車内で本に触れ、移動時間を感じさせない取組

参考資料1-3 【表1】地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者(地域内フィーダー系統)

- ①**中央幹線**（運行主体：奈良交通株式会社）
近鉄高田駅で補助対象地域間幹線系統「高田五條線」「高田イオンモール線」「高田新家線」と接続（近接）
- ②**自家用有償旅客運送**（運行主体：広陵町）
エバグリーン広陵店前で補助対象地域間幹線系統「高田イオンモール線」「高田新家線」と接続（近接）